

ふじわら  
藤原

たけし  
孟 議員

## 戦後百年目までの人口減少を推計して

### 町のこしを研究すべき。

2045年までにおきる人口減少という爆弾で町が減ぶ。

30年後に道内人口は414万人-26%となり、特に忠類や幕別本町は行政の中心を置くことで、町づくりが成り立っているが、若い女性の弁護士、医者、科学者などへの社会進出により都会へ移動するため推計値以上に過疎になる。このため、町のこしに人、物、金の流れを決める中核都市を結ぶ交通網の新しい整備が不可欠であり、わが町の未解決課題である国道の形態問題に断を下し商圈の維持と高齢者の移動の安全を図るべき。

また、豊かな社会を維持するため、町の企業の内にある匠の技の伝承を行い企業の構造破壊による自然消滅を防ぐべきで以下町長に伺う。

- ①将来の人口減少農業人口の推計値について。
- ②国道38号線の4車線化とバイパス化について。
- ③中堅技能者育成の場を官民での設置について。

町長 ①北海道経済連合会が発表した人口推計では、30年後には、道内人口が414万に減少し、平成17年対比では、十勝圏域が25・9%の減少と示され、幕別町は15・4%の減少の見込みが示されたが、本町にあっても道内の他の市町村と同様に長期の減少過程に向かうものとされている。

幕別町農業・農村振興計画では農業就業人口並びに農家戸数を、平成17年の650戸が平成29年には、離農あるいは法人化、新規就農など含めて550戸。これに伴い、農業就業人口も平成17年の295人から225人減少し、平成29年には2070人と推計をしたところである。

②国道38号線の東13号以东の4車線化整備は、現在、国は道東自動車道等の高速道の整備を重点的に進めており、国の道路中期計画の中には位置づけられておらず、大変厳しい状況である。

バイパス化についても同様で国から公共事業、道路整備に充てられる事業費が非常に厳しい状況もあり、4車線化も含めて必要性和その費用便益効果についても、詳細に検討する必要があると聞いている。今後も、主要懸案事項として関係機関に要請活動を行っていきたい。

③町が単独で受講者ニーズに応じた多様な育成カリキュラムを編成することや、講師を招くことは、極めて困難であると考えている。

今ある公的育成機関や研修の機会を活用することで、より一層効果が期待できると思っている。

したがって、町としては、公的育成機関や研修の機会に関する情報の提供に努め、次世代の子供たちのための職場体験や物づくりの楽しさを伝えるイベントの開催について、関係団体等と協議し対応していきたい。



国道38号線4車線化工事